

⑦ 防災教育・担い手育成分科会

活動の合い言葉

私たちが目指す社会の姿

「学び愛」で、未来に備える

- 自助ができる人が増え、共助ができる仕組みができている社会
- 地域の強いつながりがあり、活発な交流や情報共有ができている社会
- 地域の地理・地形や自然災害の歴史を知り、日頃の備えや活動につなげる社会
- 地域全体で楽しく学べる、体験型の防災教育が日常化している社会
- 活動団体の横のつながりを広げて、成功事例を全国に展開できる社会

⚠ 日頃から感じている課題

○「災害の未体験と他人事化」

災害を経験していないためリアルを知らず、防災を自分事にするのが難しい。つい『誰かが助けてくれる』と思ってしまう。

○「危機の風化と意識の差」

時の経過とともに災害の記憶を忘れてしまう。地域や人によって防災意識に大きな差があるのが現実。

○「学校現場のやり繰り」

防災教育の必要性は感じるが、学校での指導時間や活動費用をどう確保するかが大きな障壁に。

○「担い手不足と継承問題」

特に30代から50代の若い担い手が不足している。防災知識を持つ人が地域にうまく溶け込み活動する仕組みがない。

○「関心の薄い層へのアプローチ」

防災に興味のない人にどう参加してもらうか。お堅い防災訓練ばかりでは、若者や女性には響かない。

🌀 未来へつなぐ私たちの提言

1. 災害から誰ひとり取り残さないために

地域の様々な方と一緒に学び合う防災訓練を行い、自助や共助ができる人を増やしていくことが必要です。自助や共助に結びつくような防災教育・防災訓練をしましょう。

2. 助けになる技術や経験、仕組み、大切な道具

防災訓練、仮想空間（VR）体験、体験型の訓練を通じて自助の力を高めましょう。防災袋や防災小袋（携帯トイレ、ロープ、非常食、飲料ボトルのふた、水）で日頃から防災意識を高めましょう。

3. 次世代を担う若者への呼びかけ

災害時に適切に行動し、自分の命を守り、まわりの方に声かけられるよう、体験型の訓練などに参加して楽しく学んで備えましょう。



香川大学
危機管理先端教育
研究センター
技術補佐員
高橋 真里氏

分科会の想い～

人にはそれぞれ【想い】がある。そして【動き】がある。
お互いに愛をもって関わり、学び合っているみなさんの
温かい声を大切にしたい。

「学び愛」の言葉通り、自分の身を守るだけでなく、
学びながらつながり、
そっとまわりに声かけられるような共助ができる人が、
地域に益々増えていくことを願っています。

TEAM防災ジャパンお世話係
上田 啓瑚氏、高橋 真里氏、弘中 秀治氏、大月 浩靖一氏



防災科学技術研究所
特別研究員
上田 啓瑚氏

参加団体 ※順不同

オンリーOne防災／見附市教育委員会・見附市立学校／（一社）おいしい防災塾／東京カートグラフィック（株）／（株）吉備総合電設／（一社）72時間サバイバル教育協会／防災科学技術研究所／鳥取大学（鳥大防災ラボ）／グループ「どこでも防災」／（一社）日本損害保険協会／（一社）男女共同参画地域みらいねっと／若者防災協議会／全国クロスロードネットワーク会議／（株）ウエスコ／BOUSAIゼミナール／福島大学地域未来デザインセンター／（一財）防災教育推進協会／日本気象予報士会／（特非）アムダ／（有）アシストコム／東北大学SCRUM／熊本大学学生災害復旧支援団体「熊助組」／全国学生防災ネットワーク／三井住友海上火災保険（株）／（一社）日本応用地質学会／わかりやすいプロジェクト（国会事故調編）